

令和元年度 事業報告書

(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

学校法人 中国学園

2019年度中国学園運営基本方針

学長 千葉 喬 三

学園運営は、「教学」と「経営」に基礎をおいている。両者は、現実の学園運営においては不可分の関係にあるが、外部からはまずその経営状況が評価され、その評価は直ちに入学者の多寡に反映される。経営の要諦は、「入るを量りて出づるを為す」であるが、先ず「入る」が確保されねば改革もできない。

一方、「教学」には、教室における座学だけでなく、入学前（入試）から卒業後（同窓会）までが含まれるが、何より先ず学内における教育の質が確保されねばならない。

現在の中国学園は、長年に亘る放漫運営の結果、「教学」、「経営」共にほとんど危機的状況にあるとあってよい。今後、全国的に大学・短大をめぐる環境は益々厳しくなることは自明で、本学園はその中であって、早急に経営・教学の改革を実施しなければその存続が危ぶまれる。そのため、2019年度から以下の改革に取り組むこととする。

1. 教学の質改革、

- ・ 全学部・学科に対して、教育の質向上に向けた改革方針の提出を要請
- ・ 「国際教養学部」の抜本的改編
- ・ 学生による授業評価をより実情を反映するシステムに改良する
- ・ 入試・学園生活・卒業後支援を有機的に連関させる手法の開発

2. 経営の見直し

- ・ 経費支出を今一度見直す
- ・ 入学生確保のための総合的戦略の樹立、特に学園広報在り方・手法の見直し

それぞれの実施に当たっては細部を関係部局で調整するが、全体を管轄するのは理事会下に設置してある「中国学園改革検討機構」で行うこととする。

1. 学校法人の概要

①建学の理念・精神

教学の理念 「自律創世」

②沿革

1953 (昭和 28) 年	学校法人平田洋裁学園設立認可、平田洋裁学園設置 (岡山市船頭町 12 番地)
1962 (昭和 37) 年	学校法人平田洋裁学園を学校法人平田学園に改称 中国女子短期大学設置 (岡山市船頭町 12 番地) 家政科設置
1963 (昭和 38) 年	家政科第二部増設
1964 (昭和 39) 年	保育科増設
1965 (昭和 40) 年	中国女子短期大学を都窪郡吉備町 (現岡山市) 庭瀬 83 番地に移転 中国女子短期大学を中国短期大学に改称 英文科 音楽科 増設
1966 (昭和 41) 年	平田洋裁学園を平田デザインスクールに改称
1968 (昭和 43) 年	専攻科 音楽専攻設置
1977 (昭和 52) 年	平田デザインスクールを学校法人平田学園から分離 学校法人事務所を岡山市庭瀬 83 番地に移転
1988 (昭和 63) 年	幼児教育専攻科 英語英文専攻科 増設
1989 (平成元) 年	学校法人平田学園を学校法人中国短期大学に改称
1990 (平成 02) 年	家政科廃止認可
1992 (平成 04) 年	経営情報学科増設
1995 (平成 07) 年	専攻科音楽専攻 学位授与機構認定
1999 (平成 11) 年	人間栄養学科設置
2001 (平成 13) 年	学校法人中国短期大学を学校法人中国学園に改称
2002 (平成 14) 年	中国学園大学開学 現代生活学部人間栄養学科
2003 (平成 15) 年	中国短期大学人間栄養学科 募集停止に伴い学科廃止 専攻科英語コミュニケーション専攻 募集停止に伴い廃止
2006 (平成 18) 年	中国学園大学大学院開設 現代生活学研究科人間栄養学専攻 子ども学部子ども学科開設
2008 (平成 20) 年	専攻科 幼児教育専攻 廃止
2010 (平成 22) 年	中国学園大学大学院設置認可 子ども学研究科子ども学専攻 音楽科募集停止届出 中国短期大学平成 21 年度第三者評価、適格と認められる (短期大学 基準協会)
2011 (平成 23) 年	中国学園大学大学院開設 子ども学研究科子ども学専攻 中国学園大学平成 22 年度第三者評価、適格と認められる (日本高等 教育評価機構)
2012 (平成 24) 年	音楽科廃止
2013 (平成 25) 年	専攻科音楽専攻廃止 英語コミュニケーション学科募集停止届出
2014 (平成 26) 年	国際教養学部国際教養学科設置認可
2015 (平成 27) 年	国際教養学部国際教養学科開設 中国短期大学平成 27 年度第三者評価、適格と認められる (短期大学 基準協会) 英語コミュニケーション学科廃止
2016 (平成 28) 年	中国学園大学平成 28 年度第三者評価、適格と認められる (日本高等 教育評価機構)
2019 (平成 31) 年	幼保連携型認定こども園 中国学園大学・中国短期大学附属たねの くにこども園開園 (岡山市北区中撫川 351 番地)

③設置学校等

学校法人中国学園	理事長：中 島 博
中国学園大学	所在地：岡山市北区庭瀬 83 番地 学 長：千 葉 喬 三
中国短期大学	所在地：岡山市北区庭瀬 83 番地 学 長：千 葉 喬 三
中国学園大学・中国短期大学附属たねのくにこども園	所在地：岡山市北区中撫川 351 番地 園 長：勘 藤 まり子

④役員及び教職員に関する情報

				大 学	短期大学	小 計	こども園	合 計	
役 員	理 事	8 名	教 員	常 勤	56 名	28 名	84 名	22 名	106 名
	評議員	24 名		非常勤	35 名	26 名	61 名		61 名
	監 事	2 名	職 員	常 勤	36 名		9 名	45 名	

※大学教員には、学長を含む。

※短期大学教員には、介護福祉専攻を含む。

※こども園職員には、園長、副園長を含む。

2. 事業の概要

(1) 当該年度の主な事業の概要

《大学・短大》

I. 学部・学科の重点的取組

◎中国学園大学

【現代生活学部人間栄養学科】

(1) 管理栄養士合格者の増加

管理栄養士演習、管理栄養士専門演習、総合演習の授業のなかで国家試験への対策を行い、また国家試験対策講座を実施して、管理栄養士国家試験合格者の増加対策に取り組んだ。

・3 年次生対象の管理栄養士演習 I、II において、管理栄養士国家試験に求められる基礎

的内容について復習授業を実施し、管理栄養士国家試験に対する意識付けならびに国家試験への対策を行った。

- ・4年次生前期対象の管理栄養士専門演習において、管理栄養士国家試験に求められる基本的内容の復習及び実践的問題演習等を実施し、理解度の向上及び実践応用力の蓄積を図った。
- ・4年次生後期の総合演習において、グループ学修による知識と理解度の更なる向上を図るとともに、定期的に国家試験に準拠した模擬試験を実施し、学生各自に学修の到達度を自覚させ、試験合格への向上心を高めた。
- ・国家試験対策講座として、学部内教員による対策授業と併せ、外部講師による弱点強化のための対策授業を11月から2月にかけて断続的に実施し、理解度の一層の向上を図った。今年度の管理栄養士国家試験の合格率は77.1%であった。

(2) 学生、保護者、教員による三者面談

大学での学修や生活について学生と保護者が理解を深めるとともに、管理栄養士を中心とする就職活動の支援を進めた。

- ・2年次生を対象に、学生、保護者及び担任による三者面談を実施した。
- ・3年次生を対象に、学生、保護者に対し臨地実習、就職活動、卒業要件、国家試験に関する説明会を令和元年9月21日（土）に実施した。3年次後期からの臨地実習、就職活動、卒業要件、国家試験に関する内容を共有するとともに、就職支援部部長から就職に関する最新情報を説明して頂いた。併せて希望者との三者面談を実施し、個別対応を行った。

(3) キャリアデザイン教育の充実

実社会における管理栄養士の使命および業務内容についての理解を深め、職業意識を高め学習意欲を向上させる教育を推進した。

- ・栄養セミナーⅠにおいて、グループ学修により管理栄養士の業務内容を調査し、纏めて発表することで、職業意識の高揚を図った。
- ・ファーストイヤーセミナー、栄養セミナーⅡにおいて、実社会で活躍している管理栄養士を延べ10名招聘し、講演会や面談を行うことで多分野に渡る管理栄養士の業務内容の理解を深め、職業意識を高めた。

(4) リメディアル教育の充実、基礎学力向上

基礎学力（国語力、計算力）の向上、未履修科目（理数系科目）の学修の推進に取り組んだ。

- ・基礎学力を充実させるため、義務教育レベルの復習の徹底ならびに漢字検定の受験を課した。
- ・独自テキストを用い、個人の学力に合わせて未履修科目（理数系科目）の学修向上を図った。

(5) 地域連携と共同研究による学生生活の充実

県内企業、団体等と連携し、食品開発やレシピ開発を実施し、学生生活の充実に取り組んだ。

- ・栄養セミナーⅢの授業の一環として、岡山市保健所、JA全農おかやま、岡山県中小企業団体中央会及び公民館等と連携し、レシピ開発、健康推進啓発活動を実施した。
- ・栄養セミナーⅣ（卒業研究）の一環として、岡山市の「令和元年度学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト」に参加し、独自酵母を利用した日本酒の開発を地元企業と協働し商品化した。

(6) 学生募集の強化

オープンキャンパスや入試説明会等の機会を有効に活用し、入試広報部と連携しながら、学部の特色の広報を図り、受験者数の増加に取り組んだ。

- ・6月、7月(2回)、8月及び9月に実施したオープンキャンパスにおいて、管理栄養士養成課程での学修内容および管理栄養士の理解の向上を図るため、体験コーナーを充実させ実施した。
- ・オープンキャンパスにおいて、高校生や保護者への対応を在学学生が行う機会を増やし、学部の特色の理解向上に努めた。また卒業生を招聘して、学生時代と現在の職場について講話を行ってもらい、学部での学修内容の理解向上に努めた。

【子ども学部子ども学科】

(1) 令和2年度に向けての授業検討

再課程認定に示された内容確認、さらに魅力有る講座を検討した。

1年次3クラス編成の効果を前期末に検証し、後期にクラス替えを実施した。

(2) 保幼コース・小学校コース採用試験対策

教志会を中心とした勉強会・採用試験支援対策を実施した。

夏季セミナー、春季セミナー(1~3年生対象)

一次試験・二次試験対策セミナー(4年生対象)

実技・面接個人対応(4年生対象)

(3) 子ども学科 commons の利用拡大

学生の主体的学習習慣の涵養に向けて授業内外で働きかけを工夫する。また、授業外では教志会を中心とした自習室としての機能を持たせる工夫をした。

(4) M401 学習室の利用拡大

小学校模擬授業自習室としての利用拡大を図った。

(5) 中国学園大学こども・あごら

高校生と小学生参加「アイスクリーム&フルーツパフェをつくろう」を8月24日(土)に実施した。3月実施予定であった「イチゴ狩り&ケーキを作ろう」は見送った。

(6) 子ども学部子ども学科シンポジウム

子ども学部子ども学科シンポジウム「幼児教育と小学校教育をつなぐプログラミング教育」を2月16日に実施した。

(7) 募集広報戦略の再検討と募集計画

保育所実習・幼稚園実習・小学校実習の期間に合わせ、岡山県・愛媛県・福山地区の募集活動を実施した。

(8) 子ども学科保護者懇談会

「子ども学科保護者懇談会」を10月12日(土)実施した。

就職支援体制、実習等が話題の中心であった。希望者には個別面談を行った。

(9) 入学前オリエンテーション

2月16日(日)及び3月に新1年生対象入学前オリエンテーションを実施した。

内容：課題図書・問題集・ピアノ実技指導

【国際教養部国際教養学科】

(1) 学生の主体的学習のための支援

1) 新入生オリエンテーション研修の実施

4月8日に新入生オリエンテーションを9:20~16:30にかけて次の内容で実施。①人権教育、②キャンパス・オリエンティング、③グループ活動

2) 自主的英語学習支援システムの構築

ネイティブ教員が時間を定めてイングリッシュ・カフェに常在し、英語による日常会話の場を提供した。結果、イングリッシュ・カフェへの来訪者は増加した。

3) 卒業研究指導体制の確立

卒論指導は専門ゼミⅢ、Ⅳにおいて指導教員の下で進めるとともに、全教員が参加するテーマ発表会(4月24日)、中間発表2回(8月7日、11月27日)、最終発表会(2月5日)を通して卒業研究の進捗を定期的に点検・指導した。結果、全員が期限内に論文を提出し、そのうち7名が卒論内容をポスターにまとめ、L9301室に掲示した。

(2) キャリア教育支援(就職支援事業)

1) トップリーダー講義

内山工業(株)専務、萩原工業(株)経営戦略室・室長など国際的に事業展開を行う役員および地方創生事業を通じて地域活性化に取り組んでいる事業主(ひるぜんワイン、タルマーリーなど)を講師に招聘して、講義を行った。

2) トップリーダー経営論

学生達が希望する就職先業種についてヒアリング調査を実施し、それに基づいてツアーコンダクター、フライトアテンダント、起業家、公務員などを講師に招聘し、授業を行った。授業終了後には、質問時間を設け、また講師にインターンシップ受入れを依頼した。学生には就活への動機づけとなった。

3) インターンシップ

3年生対象の前期開講科目であるインターンシップを3年生の約7割が受講した。今年度は、夏季休業期間中に倉敷観光コンベンションビューロー、岡山県商工会連合会、笠岡市役所などで1-2週間のインターンシップを実施する学生が見られた。冬季休業期間を利用して複数名がホテル業、地元製造業などでインターンシップを実施した。

4) 地域開発プロジェクト論

地域が直面している諸問題の解決に向けた取組事例を紹介し、議論を通して取組の評価と課題認識を導く授業を実施した。

(3) 短期・長期留学支援

1) 短期留学

9月8-18日(10泊11日)マレーシアKDU大学にて短期留学実施。語学(英語)学習として、3つのクラス(レベル)に分かれて、ディスカッション、リスニング、文法を中心に学んだ。学生の留学評価アンケート調査の結果では、語学の上達だけでなく、異文化での学びや新たな目標設定の機会になったなどのコメントがあり、満足度90%以上と大変有意義な短期留学であった。

2) 長期(セメスター)留学送り出し

8名の学生を9月中に送り出した。研修先と人数は次の通りである。カナダ2名、アメリカ2名、オーストラリア2名、台湾2名。8名の内、3人が派遣留学(自費+奨学金)、5人が一般留学(自費)である。全員、予定の学習計画を達成し、無事に帰国した。帰国後の報告によると、語学(英語、中国語)の学修に加えて、それぞれの研究課題であるフィールド・ワークにも積極的に取り組むなど成果の大きい留学であった。

- 3) 長期（セメスター）留学受け入れ
本年度は、秋の学期に高苑科技大学から1名のセメスター留学生を受け入れた。日本人学生に混じって、12科目の授業を受講した。また、学園祭等の学内・学部内の諸行事にも積極的に参加し、有意義な本学学生との交流を体験した。結果、日本語能力と日本理解を高めて帰国した。
- (4) コース別資格取得支援
 - 1) 「英語プロフェッショナル・コース」通訳士
「ツーリズム・イングリッシュ B」の授業中で毎回暗唱を課し、授業時間外で暗記に務めさせた。授業時に暗唱テストを実施することで、継続的な指導を行った。
 - 2) 「地域初ビジネス・コース」上級ビジネス実務士＋観光ビジネス実務（資格授与のための体制構築）
「上級ビジネス実務士」「観光ビジネス実務士」教育課程編成表を一般財団法人全国大学実務教育協会へ提出し、承認を得た。来年度開講予定の当該資格取得に関係した科目担当者を、非常勤講師を含めて確定。
 - 3) 「日本探究コース」日本語教育（高苑科技大学文化研修）
(3)－3) で記した通り、後期に、高苑科技大学から1名のセメスター留学生を受け入れた。本学部からも、2名の学生が9月から高苑科技大学にセメスター留学した。そのほか、夏季に2名の学生が高苑科技大学を訪問し、セミナー等に参加。
- (5) 学部広報の充実
 - 1) 学部チラシ作成
学部チラシは3000枚印刷した。2000枚を入試広報部に高校ガイダンス用に提供。1000枚を総研にて保管し、高校訪問およびオープンキャンパスなど必要に応じて随時使用。
 - 2) 高大連携事業
津山東高校、邑久高校で地域活性化事業（地域学など）、プレゼンテーション指導を実施した。
 - 3) 高校生対象の英語セミナー
高教研英語部会が主催する「イングリッシュ・オン・キャンパス」のプログラムに参加し、今年度は藤代と松浦が講師として、8月上旬に岡山県の高等学校の高校生の希望者にTOEICについての講座を開講した。

◎中国短期大学 【総合生活学科】

- (1) コミュニケーション能力向上の授業を本格的に導入
本年度の教育課程から、必修科目として「生活コミュニケーション論」「生活コミュニケーション演習 A」「生活コミュニケーション演習 B」「生活コミュニケーション演習 C」「生活コミュニケーション演習 D」を導入し、世間一般で問題視されている青年期の人たちのコミュニケーション力の低さに対応する学修プログラムを始めた。本年度はプログラムの初年度であり、一年配置の授業である前者三科目が完了した。残りの後者二科目は次年度の前期・後期に一科目ずつ配置し、学生の社会的スキルの向上を図る。
- (2) 介護福祉専攻を総合生活学科へ設置の検討
専攻科改編 TF 会議の指針は、令和3年度から総合生活学科に生活福祉コースを新たに立ち上げ、このコースを介護福祉士養成課程として申請する計画であった。そこで、専攻科改変 TF 会議議長の住野副学長、保育学科・専攻科介護福祉専攻、総務企画課を中心に各部署と共同で設置計画書を作成し、令和2年3月に中国短期大学総合生活学科生活福祉コース（新設）を介護福祉士養成課程とする計画書を中国四国厚生局に提出した。

(3) 医療事務コースにおける就職力強化

医療事務コースに所属する条件の厳格化により、学生のレベル向上が進んでいると評価できる。一方で、現在の景気動向・医療事務職の現場とその他の職場との給与の差のためか、実際に医療事務現場に就職する学生数が減少している。本学科としては、学生の意志を尊重する方針だが、引き続き医療機関を目指す学生の支援を継続する。

(4) カリキュラム統廃合を進める

次年度の教育課程より、必修科目「生活学概論 A」「生活学概論 B」「生活学概論 C」「生活学概論 D」を導入する。これらは、現代生活に必要な知識を統合的に学修する科目である。これに伴い、必修科目である、旧「生活学概論」「生活環境論」「生活情報論」及び専門科目「生活経営論」「消費生活学」を廃止する。また、本学科のビジネス系の科目を廃止することにした。具体的には、「国際関係」「経営学概論」「ビジネス実務総論」「ビジネス実務演習」「簿記」「プレゼンテーション演習」を廃止する。

(5) 学科独自の表彰制度の継続実施

在学生の意欲向上・満足度強化を目的に、昨年度初めて最多単位取得、最多資格取得等の学科独自の表彰制度を導入した。本年度は、功労賞 1 名、最多単位取得者 2 名、最多資格取得者 2 名を表彰した。

(6) 募集広報活動の強化

各回のオープンキャンパスで、学科の特徴である多様な分野の模擬授業を複数開講し、参加者が自由に選択できる方式を今年度も進めている。

- ・ 高校訪問については、入試広報部との連携により、これまでに入試広報部のスタッフが実施している。
- ・ 昨年度、大学祭で初めて実施した短大 3 学科共同の「中国短期大学フェア」を今年度も開催した。内容はインスタ映えする中国短期大学の一場面をスマートフォンで撮影した写真のコンテストで多くの来場者を得た。
- ・ 介護福祉士養成課程である生活福祉コースの設置計画書を令和 2 年 3 月に中国四国厚生局に提出したため、公式に広報活動が可能になった。入試広報部の協力のもと、上記の住野副学長・保育学科専攻科介護福祉専攻のメンバーとチラシを作成、また、生活福祉コースの紹介内容を大学案内に反映させる改定を行った。また、入試広報部が中心となり、本コースを紹介する HP を立ち上げた。

【保育学科】

本学科の目指す学生像である「豊かな人間性を身につけた学生」「幅広い専門的知識・技能、実践的指導力を身につけた学生」「目標達成に向けて努力する学生」を達成するため、主として次の事業を実施した。

(1) たねのくにこども園と連携を図った魅力ある授業づくり

- ・ (保育内容)健康、(保育内容)人間関係、保育実習指導 B、言葉の指導法、保育者基礎演習、生活、こどもの理解と援助等の教科では、たねのくにこども園の保育者のかかわりや子どもたちの様子、環境構成を見学し、講義や演習で学んだことを具体的に理解できるようにし、学びの総合化を図った。
- ・ 保育内容の理解と方法、表現指導法等の教科では、学生が計画した遊びを子どもたちに指導することで、実践的指導力を育成した。
- ・ 教育・保育課程論、教育相談等の教科では、たねのくにこども園の全体的な計画やカリキュラム・マネジメント、保護者支援について、園長等からの説明により理論と実践を結びつけて具体的に理解できるようにした。

(2) 基礎学力・基礎技能の育成を図る授業づくり

- ・講義や演習では、学生が主体的・対話的で深い学びができるように工夫し、学修課題の提示、教育機器やワークシートを活用した説明、グループワーク、発表、振り返りシートの記入等を取り入れることにより、知識・技能を修得するとともに、それを活用して課題を解決するための思考力・判断力、表現力の育成を図った。
- ・社会福祉等の教科において NIE 教育を取り入れ、実社会と結びつけた学修を行うとともに、読む力、考える力、書く力の強化を図った。
- ・幼児造形等の教科において、教材・教具等を工夫し、実践的・創造的な学びを保障するよう努めた。
- ・音楽基礎演習等の教科において、グレード制を取り入れることで、ピアノの技術の定着を図った。また、学生が自由にピアノの練習ができるように、練習室の使用時間を設定した。

(3) 保育実習・教育実習における学びの充実

- ・保育所実習では、実習先の保育士 2 名を招聘して保育現場の実態や実習生に望むこと等について講話をしていただき、実習に対する心構えと意欲の向上を図った。実習後は保育実習発表会を実施し、互いの学びを共有化、実践的指導力として総合化するよう努めた。
- ・幼稚園教育実習では、実習園の 1 日見学を行うとともに幼稚園教諭 1 名と発達障がいの相談支援専門員 2 名を招聘し、幼稚園における教育の実態や特別支援教育について講話をしていただき、実習への心構えと意欲の向上を図った。
- ・特別講義「子どもに対する性の健康教育のあり方」で、保育所・幼稚園において遭遇する事柄への適切な対応方法について理解を深めた。

(4) 保育学科発表会等の開催による学修成果の発表

- ・第 48 回保育学科発表会を開催し、来場者は福山会場 463 人・岡山会場 220 人であった。
- ・中国四国保育学生研究大会において、有志 4 名が口頭発表した。

(5) 中短子育てパーク事業等の実施による地域連携・地域貢献の推進

- ・「中短子育てパーク事業」を吉備公民館・NPO 法人岡山市こどもセンターで共同開催し、学生が企画した室内遊びや中庭での水遊び等を実施することを通して、地域の子どもや保護者との交流を行った。
- ・「ちゅうたんおもちゃ公園」は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止とした。

(6) ホームカミングデイ、リカレント研修会等の開催による卒業生支援

- ・教員が前年度の卒業生の就職先を訪問し、園長・施設長に採用への謝辞を述べ本人と面会して様子等を聞いた。卒業生にとって意義深いものと感じられる。
- ・前年度の卒業生を対象に、6 月 9 日（日）にホームカミングデイを実施した。大学祭期間中（10 月 12 日・13 日）に「卒業生のためのしゃべり場」を開催、13 日はリカレント研修会「オノマトペで遊ぼう」（講師：大山先生）を実施した。
- ・「教員免許更新講習」「保育士等キャリアアップ研修会」で、本学科の教員が複数の講師を引き受け、卒業生の再教育に努めた。

【情報ビジネス学科】

(1) フィールド&ユニット制の充実

平成 29 年度から実施しているフィールド&ユニット制をさらに充実させて、平成 31 年度からは、これまでの 3 フィールドから、5 フィールドに拡大した。その成果について精査した結果、カリキュラムの内容が学生たちにわかりやすくなり、より効率的な履修を行う上で、十分に機能していると評価した。追加したフィールドの一つである心理学フィールドでは、平成 31 年度から設置科目を 5 科目に増加し、さらに専門的な学修を可能にした。

令和2年度からは、データサイエンスフィールドを追加し、専門フィールドとして、経営／会計、ビジネス／キャリア、情報、ウェブ／メディアの4フィールド、共通フィールドとして、心理学、データサイエンスの2フィールドを設置することとした。データサイエンスは、プログラミング、ビジネス、数学・統計学の3領域を包括した領域であるが、既にカリキュラムにおいてそれぞれの3領域の科目が設置されているため、令和2年度からは、基礎科目として「データサイエンス」を新設する。

(2) 課題解決型実践学修の強化

番組制作の取り組みの一つである「キニナル箱！」(テレビせとうち及びレディオモモで放送)は予算の都合により年間9回と放送回数が減少したが、キリンビールをはじめとする企業との連携や、倉フェスなどの地域密着型イベントの取材を行うなど、これまで以上にクオリティの高い番組の制作を目指して取り組んだ。また、全国的に人気のあるアーティストのハジーとコラボ商品を開発するなど、学生たちの発案によるユニークな取り組みを行った。テレビ番組の企画・出演・撮影・編集の全てを学生たちだけで行う取り組みは全国的にも珍しいため、受験生の関心も強くなりつつあり、受験動機の重要な要因の一つとなっている。また、番組制作をきっかけとして、NHK、RSK、ケーブルテレビなどへの就職実績もあがっており、3月卒業生では、井原ケーブルテレビに内定した学生もいる。さらに、倉敷ジャズストリートや里庄町産業文化祭、倉フェスなどのイベントに延べで計48名の学生がボランティアスタッフとして参加し、企画・運営にも関わった。

(3) 学生募集のための新たなスキーマの整備

イベント開催におけるリーフレット配布、SNSの活用など、イベントやデジタルコンテンツを活用して、学科の特色を活かした募集活動に取り組んだ。コンベックス岡山で開催された倉フェスでは、学科のリーフレットを約2,000部配布した。また、倉敷ジャズストリートでは、イベントのパンフレットに大学の広告を掲載した。さらに、里庄町の産業文化祭において、学生3名がステージ上から約1000名の来場者に対して大学のPRを行った。これらのメディアを活用した学生募集活動の取り組みは、学科の認知度向上に有効であると考えているため、令和2年度以降も継続する予定である。

II こども園の重点的取組

(1) 開園式

- ①4月13日(土) たねのくにこども園遊戯室 関係者120名出席
161名の園児が入園(定員200名)

(2) 大学・短期大学と連携

- ①園児の保護者や地域の子育て家庭に対して教員による子育て支援講座を実施した。
- ・6月18日 住野好久「家庭での子どもとの接し方で困っていることを出し合おう！」
 - ・7月25日 多田賢代「食育講座」
 - ・9月18日 加賀田江里「子どもと間食」
 - ・10月29日 岡崎三鈴「音楽であそぼう」
 - ・11月13日 小野順子「幼児期の学び」について
 - ・12月19日 山本忠クレイグ「子どもと日常会話」
 - ・R2年1月21日 古谷俊爾「ようこそ！プログラミングの世界へ」(敬称略)
- ②園児に対して教員や学生による遊びの提供を実施した。
- 【子ども学科】絵本の読み聞かせ(月1回) プログラミング(月1回)

壁面製作（季節毎）

【国際教養学科】英語で遊ぼう（月1回）

【保育学科】体育遊び（週1回）

【総合生活学科】6/4水を使った遊び 11/18宇宙人の人形作り

【人間栄養学科】野菜の収穫など（随時）

③学生に対してこども園での授業や実習等を実施した。

- ・授業 【保育学科】園の見学（毎週金曜日） 【子ども学科】園の見学（10/6（日））
- ・実習 【人間栄養学科】給食臨地実習
- ・インターンシップ 【人間栄養学科】給食
- ・ボランティア 【保育学科】保育

(3) 職員研修

- ①外部研修参加 主催：岡山県教育委員会、全日本私立幼稚園連合会、岡山県私立幼稚園連盟、岡山市私立幼稚園協会、岡山県保育協議会、岡山市保育協議会、岡山市保健所、岡山っ子育て局保育・幼児教育部幼保運営課、岡山市発達障害者支援センター、岡山市私立認可保育園・認定こども園園長会、岡山県栄養士会
- ②施設内研修 月1回 夜（18：00～20：00）会議と午睡時間の会議（随時）
午睡時間を利用してのミーティング

(4) 子育て支援

- ①園児に対して延長保育を実施し、年間延べ人数 3,316名の利用があった。
- ②地域の未就園児の一時預かりを実施し、年間延べ人数 797名の利用があった。
- ③幼稚園型一時預かりを実施し、年間延べ人数 471名の利用があった。
- ④休日保育を実施し、年間延べ人数 154名の利用があった。
- ⑤その他、園職員による以下の子育て支援を実施した。
 - ・ふれあい親子広場 7/12・9/11・10/28・11/26・12/23・R2, 1/17・2/18
 - ・園庭開放 月～金曜日 10：00～15：00

(5) 地域交流

- ・年長児が犬養木堂記念館を訪問した。第三避難場所に指定し、10月避難訓練時に全園児と職員が避難した。
- ・近隣の親子クラブへ子育てカフェや園庭の場所を提供した。
- ・年長児がケアコミュニティ「なつかわの郷」を訪問し、敬老会の交流をした。

Ⅲ事務局及び機関の重点事業

(1) 大学及び短期大学の定員確保と学科の発展的改組の推進等

本学園の定員未充足の現状や18歳人口の大幅減少期に向け、大学及び短期大学の定員確保が喫緊の課題であり、特に中国学園大学国際教養学部の再編や中国短期大学総合生活学科への介護福祉士養成コースの新設などについて重点的に取り組んできた。

そのため、4月に学園改革の嘱託職員を採用するとともに経営コンサルに国際教養学部改革案の作成を依頼し、9月に提示を受けた。

学園としての国際教養学部再編案を11月に採用した学園改革担当副学長のもとに取りまとめ、2021年度からリージョナル・マネジメント・コース、グローバル・マネジメント・コース、アグリ&フード・マネジメント・コースの3コース制とすることで準備を進めている。

また、2021年度より専攻科介護福祉専攻を廃止し、総合生活学科に生活福祉コースを新

設することについての計画書を厚生労働省中国厚生局に提出した。

更に、中国学園大学現代生活学部についても定員確保の具体的な取り組みについて検討を行っている。

(2) こども園での保育・教育の推進

4月に中国学園大学・中国短期大学付属たねのくにこども園が開園したことに伴い、大学・短大との連携のもとに、定期的に英語を使つての遊びや大型絵本の読み聞かせ、タブレット等のIC機器を利用した遊び、基礎体力づくりなどを実施し、就学前の子どもの保育・教育を推進した。

(3) 施設設備の整備推進

本学校舎及び体育館の施設は、平成26年度までに耐震対策工事、大規模改修工事を行い教育環境の整備が完了した。また、平成30年度には、たねのくにこども園の開園に向けての施設整備を行った。

令和元年度には、大規模な施設設備の整備予定はないが、本館1階及び2階のトイレの洋式便器の設置などの改修工事を実施した。

また、建築から経過年数の長い施設の今後の整備についての改修計画案の策定に向け研究を進めた。

(4) 学生確保の取り組みの充実・強化

入試広報部を中心とした学生確保の取り組みは、一昨年度あたりからやや苦戦を強いられている。本学の置かれた状況を客観的に明らかにするため、非出願者調査を行い、その結果を研修会の形で共有した。最終的な入学者数は、留学生、3年次編入学、転入学、専攻科、大学院を含めると昨年度比4名減であった。ただし、留学生が24名と顕著に増加していることには留意する必要がある。学部・学科別では、国際教養学部、情報ビジネス学科は増加しているが、子ども学部、総合生活学科、保育学科はやや減少、現代生活学部は厳しい減少状況である。2021年度からの新入試制度については、5月、6月の入試説明会で周知を図るなどしていく予定である。2019年の年度替わりで新しいスタッフを迎え、さらに7月に山口主任がスタッフとして加わった。そのおかげで新たな発想のもとに、印刷物のデザインの変更など高校生目線で広報を行うことができた。

①認知度アップと出願数の増加に繋がる取り組みの強化

- ・テレビ番組、ラジオ番組の内容を企画したり、企画の支援を行ったりした。
- ・業者による、オープンキャンパスの告知のバナー広告を実施し、クリック数による改善を加えながら行った。ブログを活用して、学校見学会などの紹介を行うことができた。「LINE@」の活用については、「友だち」の数を増やし認知度を上げることはあまりできなかった。
- ・オープンキャンパスに関する改善策として、7月の土、日の連続開催、予約制、ランチ無料体験、「イデーくん・ガクちゃん」の着ぐるみの活用を行った。個別のメールによるフォローは実施できなかった。

②本学の理解のための、高校教員・保護者に対する積極的な働きかけの実施

- ・高等学校訪問が学部・学科、入試広報部で重ならないように調整し、効果的な高校訪問となるようにした。
- ・オープンキャンパスの充実・工夫を行う中で、参加者が増加している保護者に対してそのニーズに応えるために保護者説明会を6月と7月に加え、8月、9月にも行い、内容も改善した。
- ・高校内ガイダンスや会場ガイダンスは計画どおり実施し、おおむね成果を上げている。本学への訪問が減少している。

③2021年度からの新入試制度への対応の的確な周知、発信

- ・新入試制度への対応案に対し、入試広報部として学生募集の観点から意見を提示した。資料送付などによって、現時点までの決定事項は発信できた。

④スポーツ推薦入学者の確保

- ・スポーツ推薦入学者が増加し、本学の女子バレーボール部・女子ソフトボール部にふさわしい競技力の高い学生を確保できた。

(5) 学生支援の充実

学生の大学における満足度は、受験生の出願に与える影響が大きい。「学生主体の大学」というコンセプトのもとに、学生の立場や参画を念頭においた改革を推進し、学生の満足度をより一層高めていく必要があると考えており、そのため次の取組みを積極的に実施する。

①就職支援の充実強化

令和元年度の卒業生の就職内定率は97.4%である。内訳は、大学98.6%、短期大学96.4%、専攻科100%だった。

企業の広報活動開始3月、選考開始6月となっているが、選考開始6月は多くの企業で有名無実であった。早くから会社説明会に参加することによって、各業界の県下優良企業から内定をいただいた。

就職活動において、インターンシップの参加も重要な要素となっており、今年度は、26人が24事業所で実施することができた。就職支援を行う上での家庭の協力は大きく、本年度は「就職支援センターだより」をホームページで紹介している。

昨年新規に実施した「プチセミナー」は、ガイダンスでの学習を深め、短時間及び少人数で、より一層就活のポイントが理解できるよう計画した。なお、参加方法として、実務に対応できるように、事前申込制を取り入れた。セミナー実施1～2週間前から募集をし、参加希望の多い場合は、数回に分けて実施した。参加人数及び内容等は次表のとおりである。

	参加人数	内 容 詳 細
インターンシップ	25	インターンシップなんでも相談・座談会 インターンシップに行こう！
不安 悩み 解消	23	一歩踏み出すセミナー これから先の進路に関することなど、気になることを共有して、どうしたらいいかを考えよう！ 短大限定！！就職活動に関する不安や悩みなどなんでもきいてみよう！ 短大限定！！先輩との座談会
自己理解	17	自己理解と面接エントリーシートのアピール点 人生すごろく「金の糸」ゲームを通じて自己理解を深めよう
ES 履歴書	36	Web エントリーシート・Web 説明会・Web 面接について Web エントリーシート・履歴書対策セミナー Web を使った企業検索・利用と WebES について
グループワーク	20	グループディスカッションの実践と理解 グループワーク、グループディスカッションの解説と模擬体験 実践！グループディスカッション
就活イベント活用方法	16	企業研究をどうすればいい？？就活イベントの活用の仕方 正しい合説（業界セミナー）の回り方 面接について実践と理解 スーツで参加 ガクチカワークから「伝える」と「伝わる」の違いを再確認しよう

おかやま新卒応援ハローワークの協力を得ての「出張ハローワーク」は、今年度も、10月～1月の6日間、毎週木曜日午後を実施して延べ48人の学生が就職相談に訪れた。詳細は次のとおりである。

月	日	参加人数
10	31	5
11	14	9
11	21	8

月	日	参加人数
12	11	12
12	19	9

月	日	参加人数
1	23	5
1	30	0

2月に「業界研究セミナー」において2日間の日程で30社の企業をお招きして実施した。また、3月には13社の企業の協力をいただき「学内合同説明会」を実施することができた。

日付	回数	内容	参加企業
2月12日(水)	第16回	業界研究セミナー	(株) オンワード樫山、(株) コパックス、(株) 外林、玉島信用金庫、(株) トップランク、(株) トマト銀行、ネットヨタ岡山(株)、(株) ハヤシ、ピコシステム(株)、(株) ファーマシィ、双葉電機(株)、(株) ホテルグランヴィア岡山、両備グループ、ウハウハウス岡山(株)、白十字グループ
2月13日(木)			(株) 明石スクールカンパニー、(株) インデップ、ANAクラウンプラザホテル(株) レイ、(株) エブレイ、岡山市農業協同組合、岡山トヨペット(株)、岡山宮地弘商事(株)、(株) カートトップ、Gateシステムズ(株)、(株) サンラヴィアン、(株) シーズ、(株) 自重堂、タマホーム(株)、水島信用金庫、(株) ブルーメイト
3月17日(水)	第17回	学内合同説明会	(株) ナリコマエンタープライズ、グリーンハウスグループ、協同精版印刷(株)、ネットヨタ山陽(株)、岡山日産自動車(株) 大善(株)、(株) ジェイアール 西日本フードサービスネット、(株) 仁科百貨店、(株) ザグザグ、(株) プレひまわり、(株) 山陽マルナカ、サンヨープレジャーグループ、福山通運(株)

就活サポーターを募って組織替えした結果、次のとおり就職ガイダンス等での司会や学生の補助を行っている。

日付 時間帯	回数	内容	就活 サポーター 参加人数	就活サポーターの業務
4/24(水) 14:50～16:20	1	就職活動準備講座	10	web登録時のサポート
5/8(水) 14:50～16:20	2	インターンシップ説明会	5	司会、資料配付、ビデオ撮影、写真撮影、 質疑マイク、web登録、出席カード
5/15(水) 14:50～16:20	3	メールの活用と 就職サイトの利用について	7	司会、資料配付、ビデオ撮影、写真撮影、 メール設定、出席カード
6/5(水) 14:50～16:20	4	自己分析講座	3	資料配付、ビデオ撮影、写真撮影、質疑マイク、 出席カード
7/10(水) 14:50～16:20	5	身だしなみ講座	4	司会、資料配付、ビデオ撮影、写真撮影、 質疑マイク、スーツ及びメイクモデル、出席カード
7/17(水) 14:50～16:20	6	「内定者による ぶっちゃけ本音トーク！」	11	司会、パネラー、資料配付、ビデオ撮影、写真撮影、 出席カード
10/2(水) 14:50～16:40	7	「働く」について考えよう	13	司会、受付、アドバイザー、資料配付、ビデオ撮影、 写真撮影、出席カード
10/9(水) 14:50～16:20	8	先輩からのメッセージ	6	パネラー、資料配付、ビデオ撮影、写真撮影、 出席カード
10/16(水) 14:50～16:20	9	履歴書・ES対策講座	3	資料配付、ビデオ撮影、写真撮影、質疑マイク、 出席カード
10/30(水) 14:50～16:20	10	面接対策講座	3	司会、資料配付、ビデオ撮影、写真撮影、出席カード
11/20(水) 14:50～16:20	11	グループワーク対策講座	4	司会、資料配付、ビデオ撮影、写真撮影、出席カード
11/27(水) 14:50～16:20	12	業界企業研究講座①	5	資料配付、ビデオ撮影、写真撮影、質疑マイク、 出席カード
12/4(水) 14:50～16:20	13	業界企業研究講座②	4	資料配付、ビデオ撮影、写真撮影、質疑マイク、 出席カード
1/15(水) 14:50～16:20	14	業界企業研究講座③	3	資料配付、ビデオ撮影、写真撮影、質疑マイク、 出席カード
1/22(水) 14:50～16:20	15	求人票の見方がわかる	3	資料配付、ビデオ撮影、写真撮影、質疑マイク、 出席カード
2/12(水) 13:30～16:00	16	業界研究セミナー	6	受付、会場設営、資料配付、写真撮影、出席カード
2/13(木) 13:30～16:00			8	受付、写真撮影、出席カード、会場原状復帰
3/17(水) 13:30～16:00	17	学内合同説明会	8	受付、写真撮影、出席カード、会場原状復帰

さらに次のことを継続して実施する。

- ・キャリア教育、インターシップの推進や就職ガイダンス、DVD視聴学習や面接練習等の充実
- ・インターネットによる求人受付、地元企業等を含む他団体との連携強化等の継続実施

令和元年度卒業生就職者数及び卒業後の進路(主な就職先等)

(令和2年5月1日現在)

		令和元年度						備考
		卒業・ 修了者数	就職 希望者数	就職者数	就職決定率	進学	進路決定率 (就職+進学) /卒業者数	
大学院	現代生活学研究科							
	子ども学研究科	1	1	1	100.0%		100.0%	
	小計	1	1	1	100.0%		100.0%	
大学	人間栄養学科	57	55	55	100.0%		96.5%	アルバイト他 2
	子ども学科	80	73	71	97.3%	4	93.8%	アルバイト他 7 未定 2
	国際教養学科	21	19	19	100.0%		90.5%	アルバイト他 2
	小計	158	147	145	98.6%	4	94.3%	
中計		159	148	146	98.6%	4	94.3%	
短期大学	総合生活学科	45	42	40	95.2%		88.9%	アルバイト他 3 未定 2
	保育学科	110	104	102	98.1%	5	97.3%	アルバイト他 6 未定 2
	情報ビジネス学科	63	49	46	93.9%	5	81.0%	アルバイト他 14 未定 3
	小計	218	195	188	96.4%	10	90.8%	
専攻科	介護福祉専攻	5	5	5	100.0%		100.0%	
中計		223	200	193	96.5%	10	91.0%	
合計		382	348	339	97.4%	14	92.4%	アルバイト他 34 未定 9

<大学(大学院)主な進路先>

◇子ども学研究科：就職：岡山県小学校教員

◇**人間栄養学科**：就職：吉備中央町、西宮市立上甲子園中学校、株式会社鈴木組、株式会社サンラヴィアン、有限会社アクシス、丸果三原合同青果株式会社、アイングループ、株式会社エム・エス経営企画サンヨー薬局グループ、株式会社オンワード樫山、株式会社ザグザグ<4>、株式会社ニシナ百貨店、株式会社ププレひまわり<2>、ライフアート・グループ、株式会社ワールドストアパートナーズ、玉島信用金庫、株式会社ワイ・ケイ興産、一般社団法人讃岐ライフスタイル研究所「まちのシューレ 963」、シダックス株式会社、株式会社立川フードサービス、ちとせ食堂、株式会社ナリコマエンタープライズ、株式会社フレスカ、株式会社ベネミール<2>、TBCグループ株式会社、社会福祉法人相愛福祉会 げんき・結愛・げんきこども園、医療法人正心会 岡本石井病院、岡山市保健所衛生検査センター、医療法人社団 岡山純心会、岡山 Y'S 小児・矯正歯科、一般財団法人津山慈風会 津山中央病院、森川整形外科病院、社会福祉法人愛成会特別養護老人ホーム唐松荘、株式会社創心會<3>、社会福祉法人ももたろう会 玉野スマイルタウン、社会福祉法人旭川荘、社会福祉法人クムレ<2>、社会福祉法人いずみ福祉事業会いずみ乙島保育園、社会福祉法人知行会里見保育園、社会福祉法人双葉会ひかり保育園、社会福祉法人喜勝会、社会福祉法人吉備健生会特別養護老人ホーム吉備高原賀陽荘、社会福祉法人恭和会特別養護老人ホーム四季の里、社会福祉法人桜谷福祉会特別養護老人ホーム桜谷荘、社会福祉法人桜谷福祉会特別養護老人ホーム桜ホーム西神、社会福祉法人せとうち特別養護老人ホームプレジール箕島、医療法人睦会介護老人保健施設ひかり苑他

◇**子ども学科**：進学：岡山大学特別支援教育特別専攻科、中国学園大学大学院 子ども学研究科<2>、中国短期大学介護福祉専攻科

就職：赤磐市<2>、明石市、浅口市、愛媛県、岡山県、岡山市<6>、倉敷市<3>、高梁市<3>、広島県<4>、福山市、三原市、美作市の小学校、幼稚園、こども園、保育園、他私立こども園、保育所、府中市、岡山県の行政職、株式会社ジェイテック、株式会社アダストリア、株式会社カートップ、スカイライブ株式会社、株式会社中原三法堂、やしまグループ株式会社やしま、おかやま信用金庫、玉島信用金庫、株式会社運動会屋、株式会社 SIGNAL BLUE、アイオ株式会社、岡山市農業協同組合他

◇**国際教養学科**：就職：岩水開発株式会社、株式会社自重堂、内山工業株式会社、CKTS株式会社、福山通運株式会社、トリツ機工株式会社、ITX株式会社、岡山日産自動車株式会社、株式会社ジェイアール西日本フードサービスネット、トヨタカローラ岡山株式会社、株式会社ナンバ、株式会社ハローズ、株式会社ワールドストアパートナーズ、ニチアス株式会社、ANAクラウンプラザホテル岡山(株)レイ、NESTA RESORT KOBE(株)、株式会社HUGE、株式会社エターナルガーデン、岡山市農業協同組合

<短期大学主な進路先>

◇**総合生活学科**：就職：タマホーム株式会社<2>、友野印刷株式会社、福山通運株式会社<4>、クオール株式会社、株式会社オンワード樫山、株式会社ザグザグ、株式会社クラブス、株式会社山陽マルナカ、ダイレックス株式会社、ビッグモーターグループ、株式会社ビプロス、株式会社ププレひまわり、ル・フォアイエ有限会社、株式会社カートップ、ネットヨタ岡山株式会社、ネットヨタ山陽株式会社<2>、リーベ株式会社たんぽぽ薬局、株式会社トマト銀行、しまなみ信用金庫、中国労働金庫、備前信用金庫、株式会社セントラルパーク岡山ビューホテル、株式会社カフェ青山、株式会社いのうえ、TBCグループ株式会社、いしだ駅前歯科、タナベ歯科医院、しげまさ歯科、医療法人水清会水島第一病院、医療法人緑風会三宅医院、社会福祉法人吉備中央町社会福祉協議会、社会福祉法人P.P.P.、株式会社縁、岡山市農業協同組合、倉敷かさや農業協同組合他

◇**保育学科**：進学：中国学園大学子ども学部子ども学科3年次編入、中国短期大学介護福祉専

攻科<4>

就職：尾道市、倉敷市、高梁市、福山市、三好市のこども園、幼稚園、保育園、私立幼稚園、こども園、保育所、学校法人中国学園たねのくにこども園<2>、株式会社ディー・エス笹沖、株式会社トモテツセブン、有限会社プライウッド、合同会社エンブレ、株式会社ハッピースタジアム、株式会社サムシングフォー The 華紋、社会福祉法人一れつ会、有限会社オリーブハウス他

◇情報ビジネス学科 進学：中国学園大学国際教養学部国際教養学科3年次編入、研究生<4>

就職：院庄林業株式会社、株式会社ベストホーム、平松電気工事株式会社、株式会社晃立、株式会社ジーベック、大和被服株式会社、株式会社英田エンジニアリング<2>、山田機械工業株式会社、井原放送株式会社、ネットリンクス株式会社、Gateシステムズ株式会社、ディーピーティ株式会社、株式会社テックス、東都システムズ株式会社、株式会社アビリブ、浅野産業株式会社、株式会社WORK SMILE LABO、株式会社マルヨシ、キソメック株式会社、株式会社本多、カセイ物産株式会社、株式会社コスモス薬品、株式会社山陽マルナカ、株式会社ジェイアール西日本フードサービスネット、スズキ岡山販売株式会社、株式会社トップランク、ブリヂストンリテールジャパン株式会社、マツサカ株式会社、株式会社ドン・キホーテ福山店、株式会社中原三法堂<2>、有限会社小野ホンダ販売 Honda Cars 倉敷中 沖店、株式会社ホンダカーズ出雲、株式会社トマト銀行、第一生命保険株式会社東四国支社善通寺営業オフィス、有限会社たろうふうず、マルシェ(株)八右衛門 備前洲崎八右衛門店、株式会社倉敷自動車教習所、株式会社ハッピードライビングスクール、グリーン歯科クリニック、医療法人医誠会児島中央病院、株式会社タスク・フォース、NPO法人岡山自立支援センターももっ子くめなん、株式会社パートナーズ、株式会社マーキュリー岡山営業所

◇専攻科介護福祉専攻 就職：旭川敬老園、社会福祉法人旭東愛児会 めぐみ幼保連携型認定こども園、こども発達支援センターばんばんLAB、学校法人のぞみ学園しいのみ幼稚園、社会福祉法人鷲山会特別養護老人ホーム岡山シルバーセンター

学生支援機構

区分	組織名	機能
就職支援	就職支援センター	面接重視による、希望と納得を踏まえた就職活動の支援、就職ガイダンスやプチセミナー、インターンシップ等の推進によるキャリア形成支援

②学生生活及び学生支援に関わる施設設備の充実

- ・1日駐車場の発行を含めた学生駐車場の有効活用
現在、学生用に91台分学生駐車場を設けているが令和元年度許可台数は61台、臨時1日駐車券の発行は450枚であった。
自家用車通学学生には交通安全講習会を前期と後期の2回義務づけ、学生による交通事故防止につながっている。
- ・JR庭瀬駅からの通学路の交通指導
本学学生の約60%が自宅から通学している現状から、新入生オリエンテーションにおいて、通学路における交通安全指導を行うとともに4月授業開始時から3日間、5月にも1週間学生の交通委員と教員が街頭指導を行った。
- ・学生食堂の食事内容やメニューの改善
今年度業者が変更となり、学生のニーズにあった充実したメニュー作りをお願いし、徐々にではあるが学食利用も増加しつつある。学生食堂のメニューと売店の品揃えに

ついて、業者との月に1度の話し合いを設け改善に努めるよう心がけた。売店の商品の品揃えの充実について学生からの要望意見が多い。

平成29年10月より後援会による学生健康サポート支援活動も毎週火曜日朝食のみ援助を行っている。学生の食生活のバランスを保つためこれからも実施していく。

・光風寮の設備・備品の更新や生活環境整備

学生寮は毎年、設備・備品の更新や改修を進め、生活環境の改善・整備を推進している。

築30年以上となり老朽化が進んでいるが、計画的に改善を行っている。今年度末には、談話室の畳の張り替え、カーペットの張り替えを行った。食堂の業者変更に伴い、学生寮の食費を令和2年度から改訂し、寮生・保護者へ周知をした。寮の食事は温かい心のこもった食事提供がとても好評である。

③学生の経済面支援の充実周知徹底

本年度、大学・短期大学とも高等教育修学支援新制度の対象機関として文部科学省より認定を受けた。学生に対する申込説明会を数回行い、153名の参加があり、105名が申請を行った。その結果68名が採用された。

本学独自の奨学生制度では、令和元年度学業成績優秀者優待者18名、修学支援優待生15名が採用された。その他卒業生の子の入学優待制度に20名、兄弟姉妹在学生支援制度に6名、沖縄等遠隔地学生支援制度に7名が該当した。日本学生支援機構の奨学生制度は令和元年9月1日現在、424名で学生全体の63%に達している（平成30年度55%）。

本学提携の民間金融機関の教育ローンの紹介にも努め、個人相談にも積極的に対応した。

④学生相談体制及び健康管理対策の充実等

学生相談については、臨床心理士と連携を図り学生の修学支援に努めている。

平成29年度に障がい学生修学支援規程を制定し、令和元年度は、合理的配慮申請を提供した学生は3名であった。そのうちの短大生2名は無事卒業の運びとなった。

大学コンソーシアム岡山「障がい学生支援委員会」とも連携を密にし、今後一層の支援対策を整えていく必要がある。

学生間での集団感染や感染拡大を未然に防止するため、令和元年度から学生健康診断のX—P撮影は直接撮影に変更した。また、麻疹・風疹の予防接種証明書の提出を徹底し、免疫有無の状態を把握している。定期健康診断の結果をもとに健康教育にも取り組んでいる。留学生にむけての冊子を提供し健康サポートもスタートさせている。

⑤学生生活への支援

・学友会活動の運営支援

10月は白鷺祭（大学祭）の運営支援を行った。

・学生生活実態調査、寮生アンケート、意見箱、学長と語る会、リーダーズキャンプ等を実施し、学生の意見を集約し、学生生活の改善に努めた。

・令和元年度の学生支援セミナーはエイズ・性感染症・性教育出前講座、生活設計のリスクと管理、SNSのメリットとリスクをテーマに3回実施した。

・学生生活向上委員会が学内清掃活動等を積極的に行った。

・全学（学生・教職員）に対して9月、学内避難訓練を実施した。さらに学生寮においては、避難訓練を春・秋2回実施し、避難経路、防災器具の取扱説明を行い防災の意識向上に努めている。

・レンタルサイクルやレンタル傘等の日常生活支援

学生へのレンタル用に自転車8台、傘70本を常備し学生への便宜を図っている。利用者数は自転車延べ488台、レンタル傘延べ221本であった。今後も計画的に新しい自転車・傘を購入し、学生の利用を図る。

(6) 図書館活動の充実

① 学生の積極的な学習のための支援

学部・学科と協力し、図書館利用および図書館情報検索ガイダンスを随時行っている。年度当初には新入生オリエンテーションを全学部・学科の新入生に行った。図書館での資料の探し方や文献検索のガイダンスはクラスやゼミ単位で申し込んでもらい、随時行った。ガイダンスに参加できない学生のための利用マニュアルは、昨年度までのものを見直し、データベース画面の変更に合わせて修正をした。

学生の作文力を高めることを目的に、昨年度までも読書感想文コンクール形式の図書館大賞の募集を行っていたが、今年度は併せて自由部門を設け、評論・エッセイ・創作など自由な形式での応募ができるようにした。今年度は読書感想文部門 36 篇、自由部門 83 篇の応募があり、各部門 5 名に賞を授与した。

催しとしては「図書館 de プチ講座」を 2 回行った。開催時間が授業と重なるため学生の参加は少なかったが、講師の教員のゼミ生などの参加をみた。

近年、自宅にパソコンを持っていない学生が増えており、資料を検索しながら図書館のパソコンでのレポート作成が増えている。同時に、ハードコピーが取りたいとの要望が増加していることから、検索用パソコンにプリンタを接続した。

学生目線での選書をするためのブックハンティングツアーを、9 月に紀伊國屋書店岡山クレド店で行った。急な補講等で出席できなくなった学生も多かったが、参加した学生は熱心で、後日学生自らが選んだものの中から一番のお薦め本の紹介文の提出もあった。

その他に、図書館に長時間いると飲食ができず、特に気温の高い時期は図書館に滞在することを忌避する学生がいる。熱中症の危険もあるとして、図書館 1 階の閲覧スペース(PC・視聴覚コーナーは除く)はペットボトル・水筒による飲水を可とした。

② 大学の知的財産の積極的活用

図書館システム未登録の図書館資料(図書・視聴覚資料)の入力を引き続き進めている。また、数年来入力作業を続けている各大学紀要のコンテンツの入力も行っている。登録に当たっては、学生アルバイトを活用している。

本学紀要についてはオープンアクセスリポジトリ協会と国立情報学研究所が共同運営している JAIRO Cloud へのデータの移行が終了し、重複データ・未公開希望の記事を削除し、現在 932 件 Web 公開している。JAIRO Cloud が新システム移行期に入ったため、今年度発行の紀要 18 号については登録できていないが、移行終了次第入力予定である。

③ 資産の維持管理の強化

図書館所蔵の図書について見直しを行い、重複図書、データが古く学生が学習する上で混乱をきたしそうなもの、破損・汚損の多いものについては除籍の手続きを進めている。

地形図・地勢図用の保管庫を設置し、昨年度のブックハンティングで購入した地形図・地勢図を収蔵した。

④ 地域への貢献

図書館を地域に公開し、資料閲覧・貸し出し、講座への参加案内をしている。

岡山県立図書館と提携し、相互貸出・返却ができるようにしている。

地域の小学校・中学校とも連携し、読書感想文コンクールの募集、体験学習などの場を提供している。これらの地域貢献活動においては、学生から自主的な協力を得ている。

今年度開園したたねのくにこども園の園児の保護者様へも本学図書館が利用できることをお知らせし、数人ではあるが利用者登録をいただいた。同園で所蔵している絵本と同じものを計画的に購入し、今年度は約半数のものを絵本ミュージアムに加えた。

(7) エクステンションセンターにおける社会的責任・地域貢献への取組みの推進

当センターは、本学の知的資源の開放を推進することにより、生涯学習及び地域社会の振興に資するとともに、地域の産学官民との連携・協力及び教育・研究の推進を図り、地

域創生に寄与すること、さらに、保育士、幼稚園教諭、小・中・高等学校教諭、栄養教諭等、教職を目指す学生の学修活動を支援し、高等教育機関としての教育の充実と発展に寄与することを目的としている。また、全ての事業において四大・短大の全学科の学生の主体的な参加と協働を重視することで「自律創世」にも貢献している。

事業の推進に当たっては、各学部・学科のセンター担当教員及び各事業の担当教員と常に情報を共有し、連携・協働してきた。

①地域連携事業

<公開講座>

本学の知的資源の開放を図る「土曜“楽”習セミナー」は、昨年度までの「大学公開セミナー」と「土曜“楽”習講座」を合体させたもので、受講料無料で実施した。「人生100年時代を楽しく生きる」を年間テーマとし、延70名が受講された。

新聞折り込み、市内公民館へのチラシ配備、南門掲示板へのポスター掲示等に加えて、山陽新聞「情報ひろば」への案内掲載など、昨年度以上に広報に努めた。

ア 土曜“楽”習セミナー（以下、【】内は受講者・参加者数）

- (ア) 5月11日(土)「日本の食の学び直しー『米を炊く』『出汁をひく』ー」
総合生活学科 講師 加賀田江里 【12名】
- (イ) 7月20日(土)「情報化社会を楽しむためにーインターネットを安全に楽しもう!ー」
情報ビジネス学科 教授 福森護 【14名】
- (ウ) 8月31日(土)「食生活を見直して健康寿命を延ばしましょう!」
人間栄養学科 講師 安原幹成 【16名】
- (エ) 9月21日(土)「学校と地域で子どもを育てるー校長の役割ー」
保育学科 教授 上岡仁 【10名】
- (オ) 11月16日(土)「みんなで楽しく『短歌』ワークショップ」
子ども学科 講師 村井隆人 【4名】
- (カ) 2月15日(土)「グローバル社会を楽しむためにーAI翻訳を活用しよう!ー」
国際教養学科 教授 竹野純一郎 【14名】
- (キ) 表彰：修了証書2名、奨励賞4名

イ 専門講座

- (ア) コーラス講座「コーラかやの木」(毎月2回) 【32名】
- (イ) ハンドベル講座「華音(かのん)」(水曜・土曜2クラス、毎月各2回) 【16名】
- (ウ) 吹奏楽講座「しらさぎシンフォニックバンド」(毎月2回) 【8名】
- (エ) 和太鼓講座「白鷺」(親子・大人の2クラス、毎月各2回) 【24名】
- (オ) 「介護講座」(6/26、8/28、10/2、11/20 全4回) 【3名】
- (カ) 「英会話講座(初級)」(8/5~7 全3回) 【6名】
- (キ) 「料理講座~カラダに栄養、心にも栄養~」(8/28、2/27 全2回) 【29名】
- (ク) 「想いを伝えるフォトブックを作ろう」(9/4・18、10/2・16・30 全5回) 【4名】
- (ケ) 「親子で体感!からだと心のワクドキ体操」(11/16) 【6名】

ウ 児童英語教育講座

- 10月26日(土)「本格実施に向けて英語指導者が心にとめるべき大切なこと」
京都外国語大学准教授 山本玲子氏 【20名】

エ 図書館 de プチ講座

- (ア) 6月26日(水)「地域へ活かす持続可能な災害教育」
図書課長：保育学科 准教授 中野ひとみ 【20名】
- (イ) 10月4日(金)「大きく変貌したアジアの大都市」
図書館長：国際教養学科 教授 日野正輝 【24名】

<中国学園白鷺講演会>

地域社会に生涯学習の機会を提供するとともに、中国学園の魅力を広く地域社会及び高校生にPRすることを目的に開催した。

- 11月3日(日)「絵本の魅力を伝えられる保育者を育てる～中国学園大学子ども学部
の取組を中心に～」 子ども学科 講師 坂田季穂
「お話から寄り添う、心と心」 絵本作家 サトシン 【80名】

<地域連携>

ア 大学コンソーシアム岡山関係

- (ア) 6月16日(日)「日ようび子ども大学」子ども学部(教員2名学生26名)【387名】
(イ) 吉備創生カレッジ 前期2講座、後期1講座
「体が動くしくみを探ろう」(5/22、6/5、19) 人間栄養学科 教授 森脇晃義 【7名】
「伝わるプレゼンテーション」(5/27、6/10、24) 国際教養学科 准教授 藤代昇丈【6名】
「洋楽・洋画で学ぶ簡単英会話」(10/1、15、29) 国際教養学科 講師 松浦加寿子【9名】
(ウ) 7月3日(水)「ECONIGHT 2019 IN 中国学園」(アコースティックライブ)【60名】

イ 教育支援人材育成事業

- (ア) 備中子どもサポーター育成講座：
6/13【125名】、7/9【143名】、9/3【142名】、10/9【184名】
(イ) 子どもパートナーin倉敷中央高校：6/26【40名】、7/17【40名】

ウ 産学官民連携事業

- (ア) 地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業補助金(岡山県)
：国際教養学科 佐々木ゼミ
(イ) 学生イノベーションチャレンジ推進事業補助金(岡山市)：人間栄養学科 河野ゼミ

エ 高大連携(出前授業)

- (ア) 6月4日(火) 岡山市立後楽館高校：保育学科 講師 山本房子【9名】

オ 地域のイベントへの参画

- (ア) 7月27日(土)「第17回 木堂ふるさとまつり」：和太鼓講座受講生、和太鼓・
ダンス・軽音楽サークル参加 【31名】
(イ) 11月3日(日)「第15回 吉備・陵南まちかど博物館」
協賛事業：中国学園白鷺講演会、図書館開放・読み聞かせ
参画：パレード(子ども・国際教養・情報ビジネス学科)【25名】、
出展ブース等ボランティア【34名】

②学生支援事業

学生の学修支援と学園生活支援について企画・運営を行った。今年度はスタッフが1名減となったが、教員等採用試験対策等に係る支援、個別指導は量・質ともに維持するように取り組んできた。学生への支援がやりやすいように事務室の様態替えも行った。

<学修支援>

ア 個別指導

学修室(7121)、支援室(7130)、イングリッシュ・カフェを活用して、全学科の学生を対象に、進路相談、面接・適性検査・作文・小論文の指導等を個別対応で行った。

特に公立学校園の保育士・教員・行政職・栄養士の希望学生については、学科から支援を要望されることが多く、今年度は全体で延1,800件超の指導を行った。

学生からの受験報告を掲載した冊子「保育士・教員志望者のために」は、次年度以降の試験対策に有効なものになるよう内容を見直し、配布対象学年も広げた。

イ 一般教養講座・教職教養講座の実施

就職試験対策として、行政機関、民間企業への就職を希望する全学部・学科学生を対象とした「一般教養講座」（昨年度：52名受講）と、教職を希望する学生を対象とした「教職教養講座」（昨年度：19名受講）を今年度末（2020年3月）に実施予定である。

「一般教養講座」は昨年度に引き続き東京リーガルマインド（LEC）へ外部委託するが、「教職教養講座」は、本年度は住野好副学長・本センター所長が講師として行う。

併せて教員採用試験模擬試験も複数回実施し、各人の実力や課題の把握にもつなげた。

ウ 基礎学力養成

新入生に対する漢字能力検定試験を学内で実施し、今年度も人間栄養学科のみが参加した。ファーストイヤーセミナーでの事前学習を5回実施後、6月29日に検定試験を実施した。3級を39名が受験し25名合格、準2級を2名が受験し1名合格、2級は6名が受験し合格者はなかった。

<学園生活支援>

ア 採用及び講師登録説明会

4月に岡山県・岡山市教員採用試験説明会を、10月には講師登録説明会を実施した。

対象学科は主に人間栄養学科、子ども学科、国際教養学科である。

イ 英会話教材による始業前視聴

英会話教材（スピード・ラーニング：特殊法人契約）を用いて、毎週月曜日～木曜日の始業前8:50～9:10に、全学科学生を対象にイングリッシュ・カフェで視聴機会を設けた。前期・後期各期で出席率の高い学生を奨励表彰するなどして、学生の主体的な参加を呼びかけおり、今年度前期は12名が参加し8名が表彰、後期は7名が参加し4名がそれぞれ表彰された。

ウ イングリッシュ・カフェの活用

イングリッシュ・カフェは、エクステンションセンターの事業（英会話教材による始業前視聴や学修支援など）、国際教養学科の授業、さらに本年度は同学科の学生支援担当教員等による定期的な英会話学修等に活用されている。

(8) 教職員の意識改革と教育・研究方法の改善

優秀な教職員を安定的に確保し、その資質向上を図ることは学校法人の重要な課題である。授業内容・方法の改善を目指した組織的な取組みであるFD（ファカルティ・ディベロップメント）と職員の資質向上のための組織的な取組みであるSD（スタッフ・ディベロップメント）活動を積極的に進めるため、次のことを実施した。

- ・FD委員会の活性化
- ・FD研修会（3回）の実施と授業へのフィードバック
- ・公開研究授業の拡大と充実
- ・学生による授業アンケートの改善・充実と集計結果の公表
- ・シラバスの改善・充実
- ・SD委員会の活性化
- ・SD研修会（5回）の実施による職員の資質向上

(9) 自己点検・評価及び認証評価の取組みの推進

平成14年に学校教育法の一部が改正され、平成16年度から、すべての大学は、7年に一度は教育研究、組織運営、施設設備及び財務等の総合的状況について第三者の評価（機関別評価）を受ける義務が生じている。

本学は、短期大学が（財）短期大学基準協会の2巡目の評価を受け、平成27年度末に

適格認定書を交付されたところである。これに続いて大学においても、平成 28 年度に (財)日本高等教育評価機構の 2 巡目の受審を受け、平成 29 年 3 月 7 日付けで適格認定書の交付を受けた。大学、短大とも第 3 クールでは基準を変更し新たな評価が行われており、これに対応した体制を整備し、適正な自己点検・評価に努めている。

(10) 経営基盤の強化

①円滑な管理運営

ア. ガバナンスの確立

私立学校の経営体制の安定と財政基盤の充実には、ガバナンスの確立が必要である。理事会の法人業務の最終意思決定機関としての位置付けや学内理事による常任理事会の設置により、円滑な大学運営を図っている。「理事会業務委任規則」等の確実な実施運営や常任理事会議の充実等、内部監査組織の機能強化とコンプライアンスに努めている。

また、私立学校法の改正に伴い、寄付行為の改正を行い、ガバナンスの確立を進めた。

イ. リスク管理体制の構築

危機管理マニュアルに基づき危機管理と危機対策を推進するとともにコンプライアンスの強化を図る。

- ・ 有人警備システムの効率的運用
- ・ 法改正に伴う防災組織(消防組織、火災訓練等)の確立
- ・ 学生の避難訓練の実施
 - 9 月 2 日に地震発生を想定した避難訓練を実施した。
- ・ ネットワーク環境とセキュリティ管理のさらなる充実
- ・ 新型コロナウイルス感染症への対応
 - 適宜危機管理委員会を開催し、対応を進めた。

②健全な財政運営

ア. 財政基盤の強化

- ・ 激変する環境に対応し、将来に向けて安定した財務基盤を維持していくため、収入の最大化を図ると共に支出については費用対効果をより多面的に検証し、計画的に比率の改善に努める。
- ・ 経常費補助金の確保、科学研究費補助金などの外部資金の積極的な導入を図るとともに、学生数とこれを支える教職員組織の適正化に留意し、運営上の収支均衡を図る。

特に経常収支の根幹である「学納金」と「人件費」のバランスに留意し、人員配置の見直しと共に業務の効率化を図り、適正と判断される比率の確保を目指す。

人件費率 (人件費/経常収入)	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	61.2%	62.2%	66.0%	70.1%	71.5%

- ・ 教育研究の充実のため、教育の質の向上、研究の活性化など、より特色のある大学づくりに向けて、支出の効果を十分検証し、各事業のスクラップアンドビルドを徹底、メリハリのある事業への支出とする。

教育研究経費比率 (教育研究経費/経常収入)	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	38.1%	35.4%	35.6%	38.2%	37.3%

- ・管理経費については、支出の内容について費用対効果、内容の妥当性を十分検討し、不要不急の支出を抑制すると共に今後の環境変化に柔軟に対応するため、組織の変革に努める。

管理経費率 (管理経費／経常収入)	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	7.7%	7.6%	8.9%	9.0%	7.4%

イ. 施設設備及び各種システムの整備充実

質の高い教育研究の展開を可能にするために、施設設備の整備、各種システムの構築、更新・充実を引続き進めた。

令和元年度はの主な工事は次のとおりである。

単位：円

工事名称等		施工箇所等	金額（円）
1	トイレ改修工事	本館 1・2 階	10,730,880
2	雨水排水ポンプ更新	本館周り（4 か所）	2,634,500
3	雨漏り修理	7 号館屋根	1,836,000
4	間仕切り工事	本館 3 階副学長室	1,203,400
5	居室修繕	光風寮	1,064,800
6	Windows7PC 更新	管理用 50 台	6,719,900

ウ. E C O 対策への取り組み

本学の E C O 対策への取り組みについては、従前から、建物のトップライト方式や冷暖房設備を吸収式冷暖房設備から G H P（ガスヒートポンプ）冷暖房設備への切替え等を実施しているところである。

平成 25 年 2 月に竣工した体育館においても、アリーナとステージの照明設備をすべて L E D 照明とすると共に太陽光発電設備を設置するなどの取り組みを行っている。3・4 号館の大規模改修工事でも、トイレ照明を人感センサー式とし、講義室等のダウンライトは L E D 照明とした。

照明器具を更新する際には L E D 照明にするとともに人感センサーによる点灯時間の短縮を行っている。

また、クールビズ、ウォームビズを実践し適正な室内温度管理に努め、E C O 対策への取組を進めた。

エ. 職員の給与

本法人の職員給与については、国家公務員の人事院勧告の動向及び本学の状況を見ながら検討することとしており、令和元年度は職員の給与改定は行わなかった。

(2) 研究教育の概要

①教育研究上の基本となる組織に関する情報

大学等	学部・研究科等	学 科	課程等
中国学園大学	現代生活学部	人間栄養学科	
	子ども学部	子ども学科	
	国際教養学部	国際教養学科	
	現代生活学研究科		人間栄養学専攻
	子ども学研究科		子ども学専攻
中国短期大学	総合生活学科		
	保育学科		
	情報ビジネス学科		
	専攻科		介護福祉専攻

②教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報

大学等	学部・研究科等	学 科	教員数
中国学園大学	現代生活学部	人間栄養学科	24人
	子ども学部	子ども学科	18人
	国際教養学部	国際教養学科	12人
	現代生活学研究科	(人間栄養学専攻)	(基礎学部を含む)
	子ども学研究科	(子ども学専攻)	(基礎学部を含む)
中国短期大学	総合生活学科		6人
	保育学科		14人
	情報ビジネス学科		8人
	専攻科介護福祉専攻		(基礎学科を含む)

【教員の保有学位または職務上の実績等】 ※ 別冊 資料

③学生に関する情報

(令和元年5月1日現在)

大学等	学部・研究科等	入学定員	収容定員	在籍者数
中国学園大学	現代生活学部 人間栄養学科	80 3年次編入4	328	205
	子ども学部 子ども学科	100 3年次編入5	325	361
	国際教養学部 国際教養学科	50 3年次編入5	300	101
	現代生活学研究科 人間栄養学専攻	5	10	0
	子ども学研究科 子ども学専攻	5	10	4
	小 計	240	973	671

中国短期大学	総合生活学科	85	170	112
	保育学科	120	240	244
	情報ビジネス学科	80	160	110
	専攻科 介護福祉専攻	40	40	6
	小計	325	610	472
合計		565	1,583	1,143

注（ ）は内数で編・転入者を含む

【大学・短大：入学に関する基本的な方針】

- ・現代生活学部 人間栄養学科：中国学園大学学則第1条の2の第1号による
- ・子ども学部 子ども学科：中国学園大学学則第1条の2の第2号による
- ・国際教養学部 国際教養学科：中国学園大学学則第1条の2の第3号による
- ・現代生活学研究科 人間栄養学専攻：中国学園大学大学院学則第1条の2の第1号による
- ・子ども学研究科 子ども学専攻：中国学園大学大学院学則第1条の2の第2号による
- ・総合生活学科：中国短期大学学則第1条の2の第1号による
- ・保育学科：中国短期大学学則第1条の2の第2号による
- ・情報ビジネス学科：中国短期大学学則第1条の2の第4号による
- ・専攻科 介護福祉専攻：中国短期大学学則第41条の2による

④学習環境に関する情報

大学等	キャンパス	学部・研究科等	所在地	主な交通手段
中国学園大学	庭瀬 キャンパス	現代生活学部 人間栄養学科 子ども学部 子ども学科 国際教養学部 国際教養学科 現代生活学研究科 人間栄養学専攻 子ども学研究科 子ども学専攻	岡山市北区庭瀬 83番地	山陽本線庭瀬駅 下車 徒歩15分
中国短期大学		総合生活学科 保育学科 情報ビジネス学科 専攻科 介護福祉専攻		

⑤学生納付金に関する情報

学部・学科		授業料		入学料		その他の費用徴収	
		金額	納入時期	金額	納入時期	金額	納入時期
中国 学 園	現代生活学部 人間栄養学科	50万円	4月20日 10月20日	25万円	入学手続時	50万円	4月20日 10月20日
	子ども学部 子ども学科		4月20日 10月20日				40万円

大 学	国際教養学部 国際教養学科	64万円	4月20日 10月20日	25万円	入学手続時	40万円	4月20日 10月20日
	現代生活学研究科 人間栄養学専攻	40万円	4月20日 10月20日	25万円	入学手続時	30万円	4月20日 10月20日
	子ども学研究科 子ども学専攻	40万円	4月20日 10月20日	25万円	入学手続時	20万円	4月20日 10月20日
中 国 短 期 大 学	総合生活学科 保育学科 情報ビジネス学科	41万円	4月20日 10月20日	25万円	入学手続時	38万円	4月20日 10月20日
	専攻科 介護福祉専攻	40万円	4月20日 10月20日	25万円	入学手続時	35万円	4月20日 10月20日

⑥学生支援と奨学金に関する情報

〈学生支援機構〉

区 分	組 織 名	機 能
就職支援	就職支援センター	面接重視による希望と納得を踏まえた就職活動の支援。企業開拓（求人開拓）、就職ガイダンスやe-ラーニング、インターシップ等の推進によるキャリア形成支援
	エクステンションセンター （学生支援部門）	保育士、幼稚園教諭、小学校教諭などの採用試験対策として、専門試験、面接練習、一般教養試験、論文作成等の指導と採用試験説明会や講師登録説明会を行い支援している
生活支援 （住居、アルバイト等）	学生課	学生課職員が掲示・パソコン等を通じて学生に随時紹介している
保健・衛生	保健室	専門職員を配置し、健康に関する相談、けがや病気の応急措置等に対応している 定期健康診断の実施及び健康診断証明書の発行
メンタルヘルス	学生相談室	専門職員がインテーカーとして対人関係・学業・進路・心の健康等の相談に応じている

〈奨学金〉

種 類	要 件	申 込 方 法
日本学生支援機構 第1種（無利子） 第2種（有利子）	人物、学業ともに優秀、健康 経済的理由による修学困難	本人の願い出により選考し、日本学生支援機構へ学生課を経由して推薦
地方公共団体による奨学金 ・岡山市奨学生 ・倉敷市奨学生	それぞれ市内居住者またはその子ども 人物、学業ともに優秀、健康 経済的理由により修学困難他の奨学金を受けていないこと等	本人が直接該当市教育委員会事務局へ申請 担任による推薦調書が必要
ノートルダム育英財団	岡山県内の大学・短大に在学する学生（1年・院博士課程は除く） 人物、学業ともに優れ、将来社会貢献を期待できる者	本人の願い出により、学生課を経由して推薦 指導教官の推薦書が必要

あしなが育英会	保護者（父・母）病気や災害若しくは自死などにより、著しい後遺症を負い、教育費に困っている家庭の子ども	本人の願い出により、学生課を経由して推薦 学長または学部長の推薦が必要
交通遺児育英会	保護者等が交通事故で死亡したり、重い後遺障害のために働けず、経済的に修学困難な学生	本人の願い出により、学生課を経由して推薦 学長または学部長の推薦が必要
公益財団法人 小松奨学財団	人物・学業ともに優秀で経済的援助が必要と認められる者	本人の願い出により、学生課を経由して推薦 学長または学部長の推薦が必要

〈特待生・優待生等〉

種 類	減 免 額 等	対 象	対象学生
学業成績特待生制度 (新入生)	入学金免除及び授業料 (1年間)の全額又は半 額免除	特待生のための試験を実 施して選抜する A：入学金、授業料(全学) 免除 B：入学金、授業料(半額) 免除	大学1年次生
学業成績優待生制度 (新入生)	入学金免除及び授業料 (1年間)の半額免除	入学試験において特に成 績優秀であった者	短大1年次生
学業成績優待生制度 (在學生)	10万円の給付	学業、人物ともに優れた者	大学2・3・4年次 生 短大2年次生
修学支援優待生制度	授業料(1年間)の半額 免除	経済的に修学が困難にな った者で成績良好な者	全学年
卒業生の子の入学優 待制度	入学金の免除	本学卒業生を保護者とす る新入生	1年次生
兄弟姉妹・在學生支援 制度	在学期間の弟妹の授業 料1/3相当額の免除	本学に兄弟姉妹が同時期 に在学する場合、その在学 期間の弟又は妹	全学年
沖縄県等遠隔地学生 支援制度	入学金の免除及び寮 費、管理費の半額免除	沖縄県等からの入学者	全学年

(3) こども園の概要

①名称等

名 称	形 態	所 在 地	主な交通手段
中国学園大学・中国短期大学附属 たねのくにこども園	幼保連携型認定こども園	岡山市北区中撫川351番地	JR山陽本線庭瀬駅 (約2.3Km) 岡電・両備・下電バス 撫川停留所(約1Km)

②園児の状況

1) 定員：200人

1号認定			2号認定			3号認定		
3歳児	3歳児	5歳児	3歳児	4歳児	5歳児	0歳児	1歳児	2歳児
15人	15人	15人	25人	35人	35人	12人	24人	24人

2) 在籍者数：161人

(令和元年5月1日現在)

1号認定			2号認定			3号認定		
3歳児	3歳児	5歳児	3歳児	4歳児	5歳児	0歳児	1歳児	2歳児
15人	15人	6人	25人	35人	5人	12人	24人	24人

③教育・保育時間

1号認定	2・3号認定
月曜日～金曜日 休業日：土曜日・日曜日・学年始休業日・夏季休業日・冬季休業日・学年末休業日・国民の祝日に関する法律に規定する休日	月曜日～土曜日 休園日：日曜日・年末年始・国民の祝日に関する法律に規定する休日
【教育時間】 9:00～14:00	【教育・保育時間】 〈標準時間認定〉 7:00～18:00 〈短時間認定〉 8:30～16:30
○一時預かり	○延長保育 ○休日保育 ○一時預かり

(4) 財務の概要

(1) 資金収支の推移（法人全体）

資金収支計算書は当該会計年度（4月1日から翌年3月31日）に行った諸活動に対応する全ての資金の動きを記録することによって、当該年度の収入と支出の内容を明らかにし、資金の顛末を表すものです。

法人名：学校法人 中国学園

資金収支計算書の状況

(単位：千円)

収入の部					
科 目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
学生生徒等納付金収入	1,082,254	1,122,198	1,110,989	1,101,841	1,148,870
手数料収入	18,310	15,871	14,880	16,670	16,025
寄付金収入	6,000	6,000	6,200	7,608	6,490
補助金収入	177,663	169,651	115,528	455,561	296,232
国庫補助金収入	176,612	167,725	113,409	134,943	128,675
地方公共団体補助金収入	1,051	1,926	2,119	320,618	167,557
資産売却収入	1,470,000	632,111	1,858,064	1,400,085	300,000
付随事業・収益事業収入	22,402	23,553	21,576	17,790	11,494
受取利息・配当金収入	58,642	63,181	53,595	38,799	26,619
雑収入	65,814	62,064	57,511	44,987	39,945
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	304,580	271,721	280,176	297,485	291,157
その他の収入	321,877	326,551	315,720	344,534	666,641
資金収入調整勘定	△ 380,238	△ 361,911	△ 325,668	△ 632,761	△ 345,721
前年度繰越支払資金	1,360,815	921,011	975,575	999,411	827,807
収入の部合計	4,508,119	3,252,000	4,484,147	4,092,009	3,285,561
支出の部					
科 目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
人件費支出	910,813	907,711	920,250	953,407	1,103,117
教育研究経費支出	296,401	269,658	265,217	294,100	305,447
管理経費支出	100,225	101,853	112,956	118,480	101,580
借入金等利息支出	6,497	5,552	4,968	4,383	3,799
借入金等返済支出	70,760	30,760	30,760	30,760	30,760
施設関係支出	59,513	10,492	9,823	1,080,789	10,731
設備関係支出	36,192	26,315	37,774	98,766	37,852
資産運用支出	1,800,000	653,044	1,850,000	400,000	400,000
その他の支出	337,238	292,805	278,780	336,439	353,164
資金支出調整勘定	△ 30,531	△ 21,766	△ 25,791	△ 52,922	△ 44,903
翌年度繰越支払資金	921,011	975,575	999,411	827,807	984,014
支出の部合計	4,508,119	3,252,000	4,484,147	4,092,009	3,285,561

*各表は科目ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計が一致していない場合があります。

(2) 活動ごとの資金収支の推移（法人全体）

活動区分資金収支計算書は、学校法人の活動ごとの資金の流れを明らかにすることを目的として作成される計算書です。

具体的には、資金収支計算書の決算額を①教育活動、②施設整備等活動、③その他の活動に区分したものです。

法人名：学校法人 中国学園

活動区分資金収支計算書の状況

(単位：千円)

科 目		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度
教育活動による資金収支	収入					
	学生生徒等納付金収入	1,082,254	1,122,198	1,110,989	1,101,841	1,148,870
	手数料収入	18,310	15,871	14,880	16,670	16,025
	経常費等補助金収入	173,142	165,560	111,868	134,303	290,938
	教育活動資金収入計	1,367,922	1,394,787	1,323,024	1,318,199	1,508,763
	支出					
	人件費支出	910,813	907,711	920,250	953,407	1,103,117
教育研究経費支出	296,401	269,658	265,217	294,100	305,447	
調整勘定等	△ 58,585	△ 37,151	16,856	33,294	△ 17,165	
施設整備等活動による資金収支						
科 目		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度
収入	施設設備補助金収入	4,521	4,091	3,660	321,258	5,294
	施設整備等活動資金収入計	4,521	4,091	3,785	326,343	10,294
支出	施設関係支出	59,513	10,492	9,823	1,080,789	10,731
	設備関係支出	36,192	26,315	37,774	98,766	37,852
	施設整備等活動資金支出計	95,705	36,807	47,597	1,179,555	48,583
差引	△ 91,184	△ 32,716	△ 43,812	△ 853,212	△ 38,289	
調整勘定等	△ 2,002	4,547	△ 6,013	△ 299,984	315,670	
施設整備等活動資金収支差額	△ 93,185	△ 28,169	△ 49,824	△ 1,153,196	277,381	
その他の活動による資金収支						
科 目		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度
収入	借入金等収入	0	0	0	0	0
	小計	1,753,202	896,354	2,116,871	1,691,670	616,509
	受取利息・配当金収入	58,642	63,181	53,595	38,799	26,619
	その他の活動資金収入計	1,811,844	959,993	2,170,466	1,730,468	643,128
支出	借入金等返済支出	70,760	30,760	30,760	30,760	30,760
	小計	2,153,863	950,122	2,133,295	729,999	741,956
	借入金等利息支出	6,497	5,552	4,968	4,383	3,799
	調整勘定等	0	0	0	0	0
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)		△ 439,804	54,564	23,836	△ 171,604	156,207
前年度繰越支払資金		1,360,815	921,011	975,575	999,411	827,807
翌年度繰越支払資金		921,011	975,575	999,411	827,807	984,014

* 主要科目のみ表示している場合、各計が一致していない場合があります、また科目ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計が一致していない場合があります。

(3) 事業活動収支の推移（法人全体）

事業活動収支計算書は当該会計年度（4月1日から翌年3月31日）の事業活動収支の内容を明確にし、基本金へ組み入れる額を控除した事業活動収支の均衡を表すものです。

法人名:学校法人 中国学園

事業活動収支計算書の状況

(単位:千円)

科目		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	1,082,254	1,122,198	1,110,989	1,101,841	1,148,870
	手数料	18,310	15,871	14,880	16,670	16,025
	寄付金	6,184	6,220	6,200	2,608	1,490
	経常費等補助金	173,142	165,560	111,868	134,303	290,938
	付随事業収入	22,402	23,553	21,576	17,790	11,494
	雑収入	65,814	61,606	57,511	44,987	39,945
	教育活動収入計	1,368,105	1,395,007	1,323,024	1,318,199	1,508,763
	科目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	人件費	872,924	907,581	909,202	950,683	1,098,099
	教育研究経費	543,038	516,012	489,715	518,155	572,261
管理経費	109,223	111,097	121,840	122,157	112,971	
徴収不能額等	0	395	1,173	2,453	2,809	
教育活動支出計	1,525,186	1,535,084	1,521,930	1,593,447	1,786,140	
教育活動収支差額	△ 157,080	△ 140,078	△ 198,907	△ 275,248	△ 277,378	
教育活動外収入の部	科目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	受取利息・配当金	57,243	63,229	53,644	38,847	26,668
	教育活動外収入計	57,243	63,229	53,644	38,847	26,668
	科目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
教育活動外支出の部	借入金等利息	6,497	5,552	4,968	4,383	3,799
	教育活動外支出計	6,497	5,552	4,968	4,383	3,799
	教育活動外収支差額	50,746	57,677	48,677	34,464	22,869
経常収支差額	△ 106,334	△ 82,401	△ 150,230	△ 240,784	△ 254,509	
特別収支	科目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	資産売却差額	0	3,016	8,058	77	0
	その他の特別収入	4,521	4,550	4,275	326,523	10,505
	特別収入計	4,521	7,566	12,334	326,601	10,505
	科目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	資産処分差額	5,882	1,947	2,461	14,404	311
	その他の特別支出	28,008	28,000	28,001	34,493	28,000
	特別支出計	33,890	29,947	30,462	48,897	28,311
	特別収支差額	△ 29,369	△ 22,381	△ 18,129	277,703	△ 17,806
	基本金組入前当年度収支差額	△ 135,704	△ 104,782	△ 168,359	36,919	△ 272,315
基本金組入額合計	△ 127,784	△ 2,000	△ 35,784	△ 1,158,359	△ 47,742	
当年度収支差額	△ 263,488	△ 106,782	△ 204,143	△ 1,121,440	△ 320,057	
前年度繰越収支差額	△ 1,075,000	△ 1,338,488	△ 1,439,777	△ 1,643,920	△ 2,765,360	
基本金取崩額	0	5,492	0	0	0	
翌年度繰越収支差額	△ 1,338,488	△ 1,439,777	△ 1,643,920	△ 2,765,360	△ 3,085,418	
(参考)						
事業活動収入計	1,429,869	1,465,802	1,389,002	1,683,647	1,545,935	
事業活動支出計	1,565,572	1,570,584	1,557,361	1,646,727	1,818,250	

*各表は科目ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計が一致していない場合があります。

(4) 貸借対照表(資産の状況)の推移(法人全体)

貸借対照表は期末(会計年度末:3月31日)における資産・負債・純資産(基本金および繰越収支差額)を把握し、財政状態の健全性を表すものです。

法人名: 学校法人 中国学園

貸借対照表の状況

(単位:千円)

資産の部	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
科 目					
固定資産	8,595,867	8,193,485	7,216,816	8,147,447	8,017,754
有形固定資産	6,518,626	6,298,985	6,112,073	7,043,984	6,815,039
土地	1,304,369	1,314,646	1,314,646	1,314,646	1,314,646
建物	4,368,265	4,194,618	4,030,295	4,831,083	4,649,338
構築物	200,635	183,377	165,844	275,857	249,199
教育研究用機器備品	241,395	197,473	175,824	215,597	191,005
その他の機器備品	9,189	9,922	11,893	11,922	11,699
図書	394,732	398,908	403,710	394,848	399,152
車両	40	40	40	32	0
建設仮勘定	0	0	9,823	0	0
特定資産	0	0	0	0	0
その他の固定資産	2,077,241	1,894,501	1,104,743	1,103,462	1,202,715
電話加入権	1,102	1,102	1,102	1,102	1,102
無形固定資産	148	0	0	0	0
有価証券	2,075,766	1,889,764	1,099,813	1,099,861	1,199,910
施設設備拡充引当特定資産	0	0	0	0	0
長期未収入金	0	0	0	0	0
長期前払金	225	3,635	3,828	2,499	1,703
流動資産	984,219	1,242,736	2,053,011	1,193,054	1,036,494
現金預金	921,011	975,575	999,411	827,807	984,014
未収入金	62,308	56,936	52,864	350,132	45,427
有価証券	0	210,000	1,000,000	0	0
立替金	0	0	0	8,444	6,735
前払金	899	225	736	6,671	318
資産の部合計	9,580,086	9,436,222	9,269,827	9,340,501	9,054,249

(単位:千円)

負債の部	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
科 目					
固定負債	577,738	573,976	554,604	559,638	552,124
長期借入金	276,840	246,080	215,320	184,560	153,800
退職給与引当金	293,088	320,959	337,911	363,187	386,169
長期未払金	7,810	6,937	1,372	11,891	12,155
流動負債	391,225	355,905	377,241	405,961	399,538
短期借入金	30,760	30,760	30,760	30,760	30,760
未払金	26,487	24,647	31,131	41,668	37,968
前受金	304,580	271,721	280,176	297,485	291,157
預り金	29,398	28,777	35,174	36,049	39,653
負債の部合計	968,963	929,881	931,845	965,599	951,662
純資産の部					
科 目					
基本金	9,949,611	9,946,118	9,981,902	11,140,262	11,188,004
第1号基本金	9,847,611	9,842,118	9,877,902	11,036,262	11,084,004
第2号基本金	0	0	0	0	0
第3号基本金	0	0	0	0	0
第4号基本金	102,000	104,000	104,000	104,000	104,000
繰越収支差額	△ 1,338,488	△ 1,439,777	△ 1,643,920	△ 2,765,360	△ 3,085,418
純資産の部合計	8,611,123	8,506,341	8,337,982	8,374,901	8,102,586
負債及び純資産の部合計	9,580,086	9,436,222	9,269,827	9,340,501	9,054,249

*各表は科目ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計が一致していない場合があります。

(5) 主な財務比率の推移(法人全体)

◆ 事業活動収支計算書関係比率

	比率	計算式	比率の意味	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
1	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	経常収入に対する人件費の占める割合を示しています。この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化に繋がる要因となります。	61.2%	62.2%	66.0%	70.1%	71.5%
2	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	経常収入に対する教育研究経費の占める割合を示しています。この比率は収支均衡を失しない範囲内で高くなることが望ましいとされています。	38.1%	35.4%	35.6%	38.2%	37.3%
3	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	経常収入に対する管理経費の占める割合を示しています。ある程度の支出は止むを得ないものの、比率は低い方が望ましいとされています。	7.7%	7.6%	8.9%	9.0%	7.4%
4	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	経常収入から経常支出を差し引いた経常収支差額の経常収入に対する割合で、経常的な収支バランスを表す比率です。	△7.5%	△5.7%	△10.9%	△17.7%	△16.6%
5	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	教育活動収入から教育活動支出を差し引いた教育活動収支差額の教育活動収入に対する割合で、本業である教育活動の収支バランスを示す比率です。	△11.5%	△10.0%	△15.0%	△20.9%	△18.4%

* 「経常収入」=教育活動収入計+教育活動外収入計

「経常支出」=教育活動支出計+教育活動外支出計

◆ 活動区分資金収支計算書関係比率

	比率	計算式	比率の意味	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
1	教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	教育活動資金収支差額の教育活動収入に占める割合を示し、本業である「教育活動」でキャッシュフローが生み出せているかを測る比率です。	0.1%	5.6%	3.1%	△1.1%	△1.2%

* 教育活動資金収入計=学生生徒等納付金収入+手数料収入+特別寄付金収入+一般寄付金収入+経常費等補助金収入+付随事業収入+雑収入

教育活動資金支出計=人件費支出+教育研究経費支出+管理経費支出

教育活動資金収支差額=教育活動資金収入計-教育活動資金支出計+教育活動調整勘定等

◆ 貸借対照表関係比率

	比率	計算式	比率の意味	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
1	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	一年以内に支出しなければならない流動負債に対して、現金預金など現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかという、短期の支払能力を判断する重要な指標です。	251.6%	349.2%	544.2%	293.9%	259.4%
2	積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	施設設備の更新や教職員の退職金資金等、将来の確定的債務等について、どの程度保有資産の裏付けがあるかを表す比率です。この比率は高い方が望ましいとされています。	76.0%	74.1%	71.2%	42.0%	44.9%

* 運用資産=現金預金+特定資産+有価証券(固定・流動)

要積立額=減価償却累計額+退職給与引当金+2号基本金+3号基本金